

栗駒山の火山活動解説資料（平成 29 年 3 月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～3）

大柳に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

12 日に岩手県の協力により実施した上空からの観測では、ゆげ山及び地獄釜¹⁾ 付近の噴気や融雪域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 4）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図 5、図 7）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) 従来「旧火口」の呼称を使用してきましたが、今後は「地獄釜」を使用します。



図 1 栗駒山 山頂周辺の状況（3 月 20 日）

・大柳（山頂の南東約 20km）に設置している監視カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 4 月分）は平成 29 年 5 月 11 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

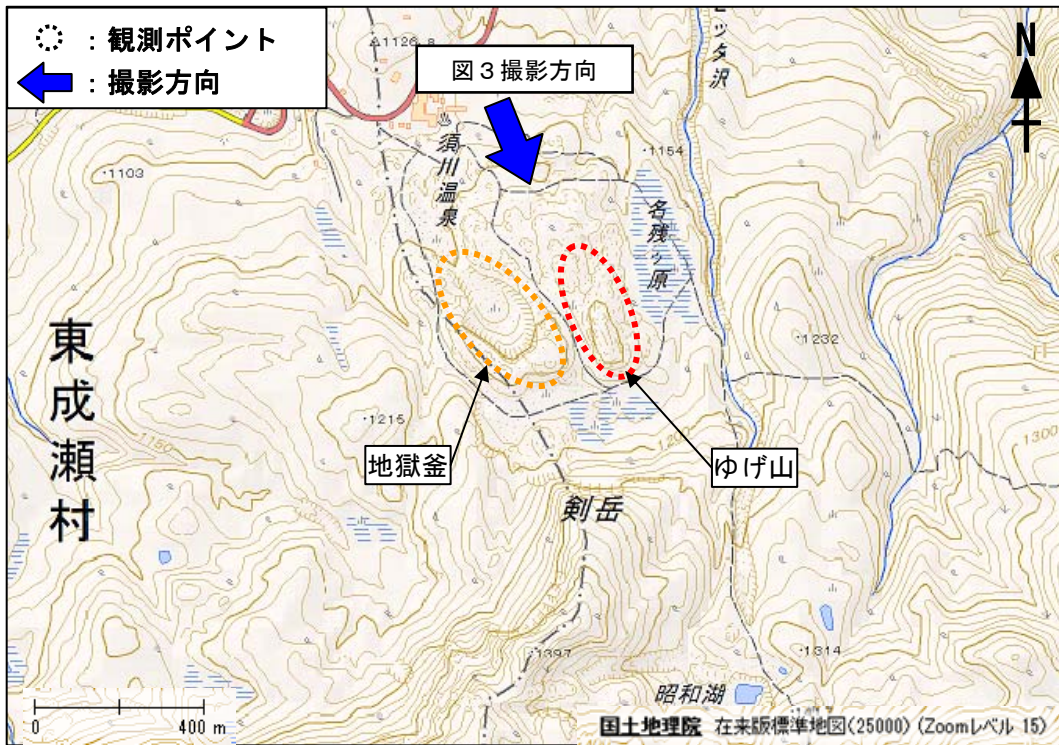


図2 栗駒山 ゆげ山及び地獄釜の観測ポイントと上空からの写真の撮影方向

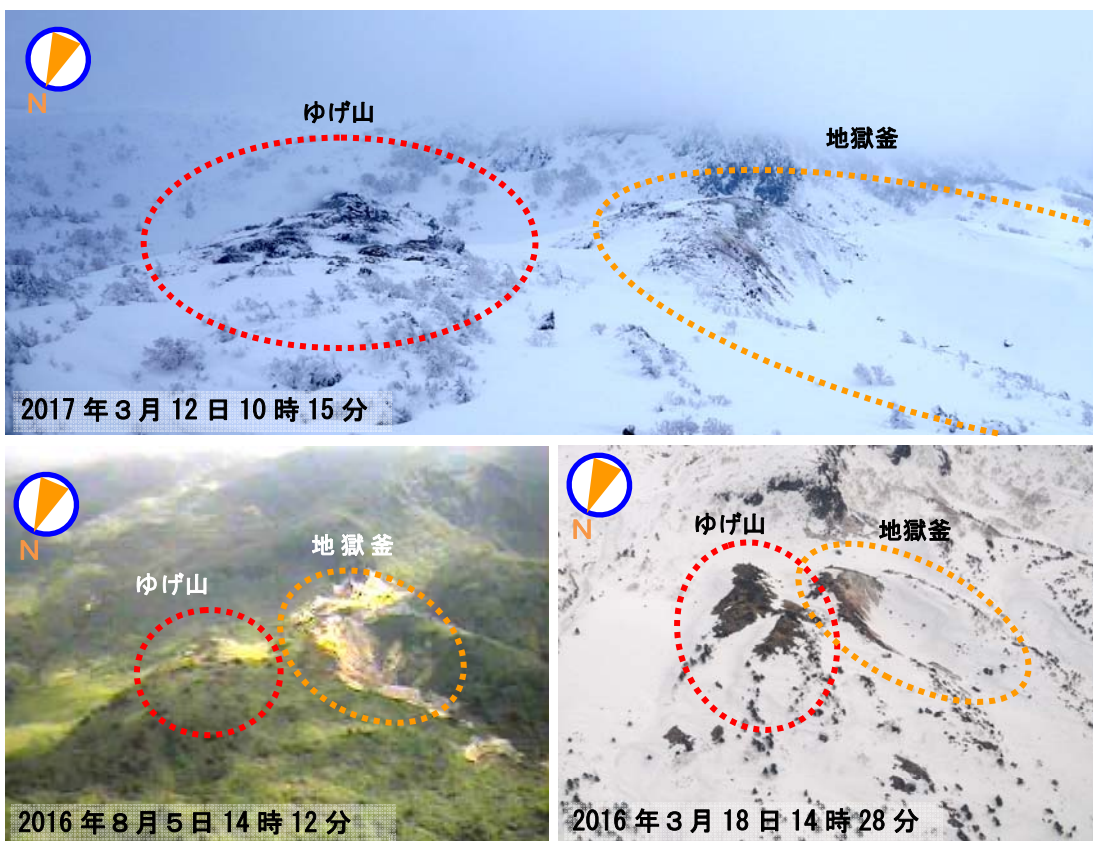


図3 栗駒山 上空から撮影したゆげ山及び地獄釜付近の状況

- ・ゆげ山及び地獄釜では、従来から地熱が認められている領域で融雪がみられました。また、ゆげ山では弱い噴気が認められました。ゆげ山及び地獄釜付近の噴気や融雪域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・2017年3月12日及び2016年8月5日は岩手県の協力により、2016年3月18日は陸上自衛隊の協力により撮影しました。
- ・図中の楕円の色は図2に対応します。

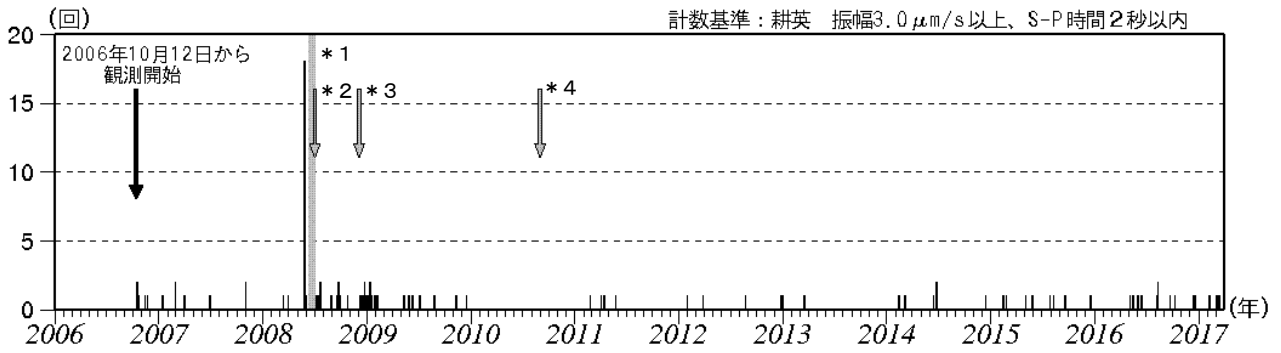


図4 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2017年3月）

- ・2006年10月12日から旧耕英観測点（山頂から南東約4km）で観測を開始しました。
- * 1 2008年6月14日から7月2日18時（図の灰色部分）まで「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。
- * 2 2008年7月2日18時から小安観測点（山頂から北西約10km）で観測を開始しました。
- * 3 2008年12月4日から旧耕英観測点で観測を再開しました。
- * 4 2010年9月1日から耕英観測点（山頂から南東約4km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所）で観測を開始しました。

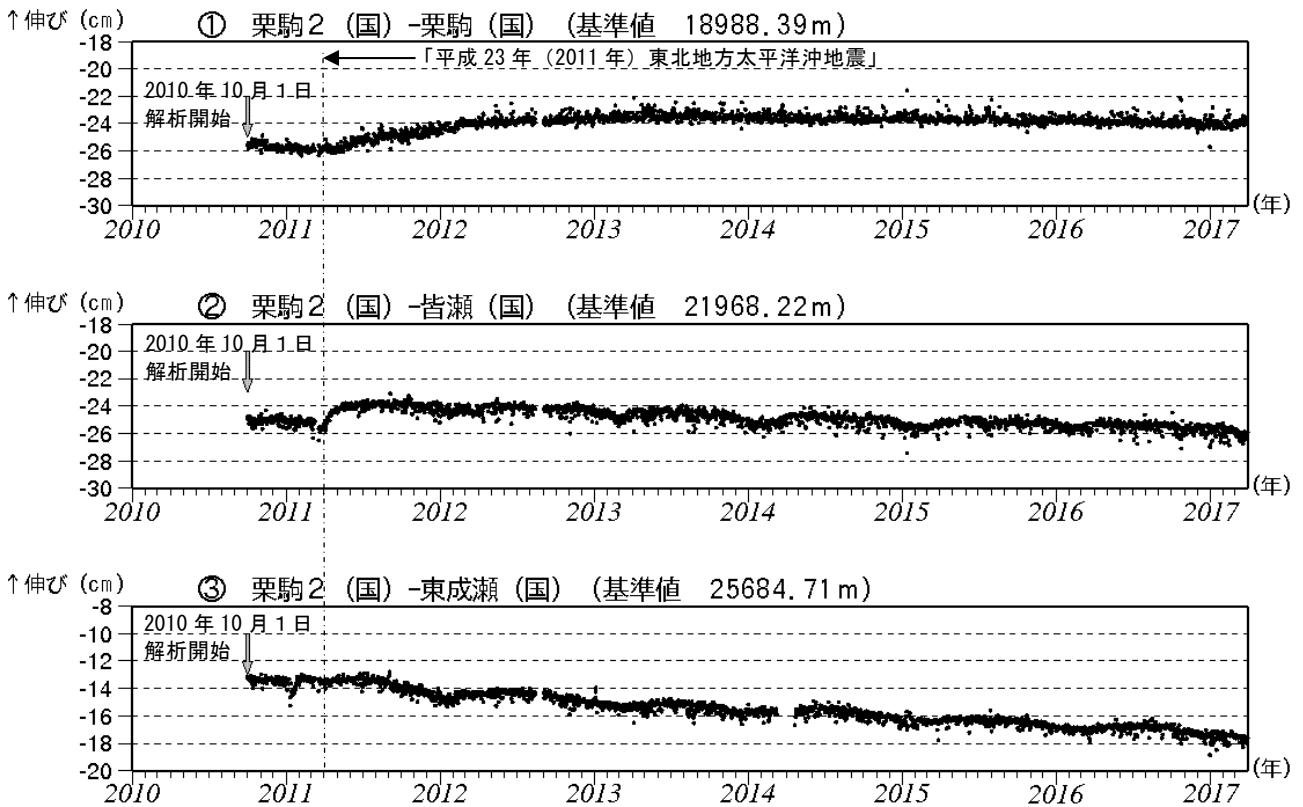


図5 栗駒山 GNSS²⁾ 基線長変化図（2010年10月～2017年3月）

- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・①～③は図7のGNSS基線①～③に対応しています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
 - ・(国) は国土地理院の観測点を示します。
- 2) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

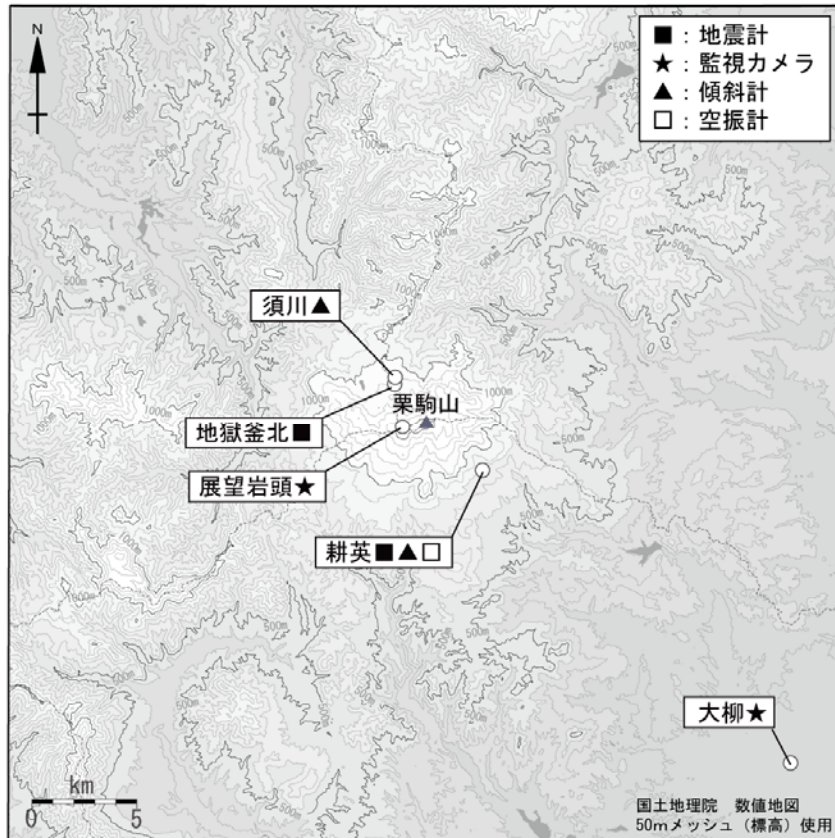


図 6 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。

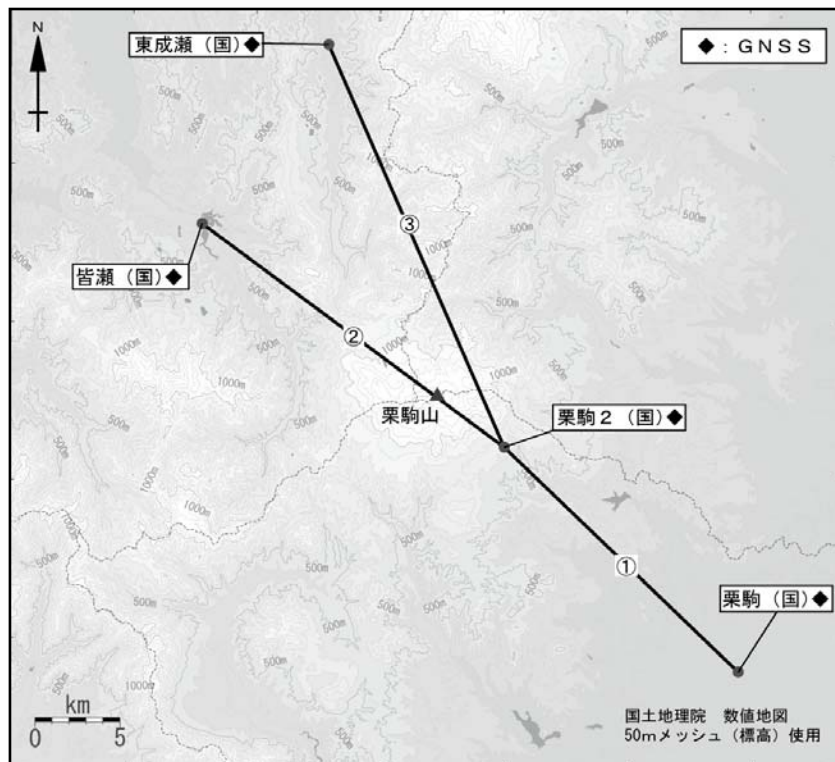


図 7 栗駒山 GNSS 観測点配置図

小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院